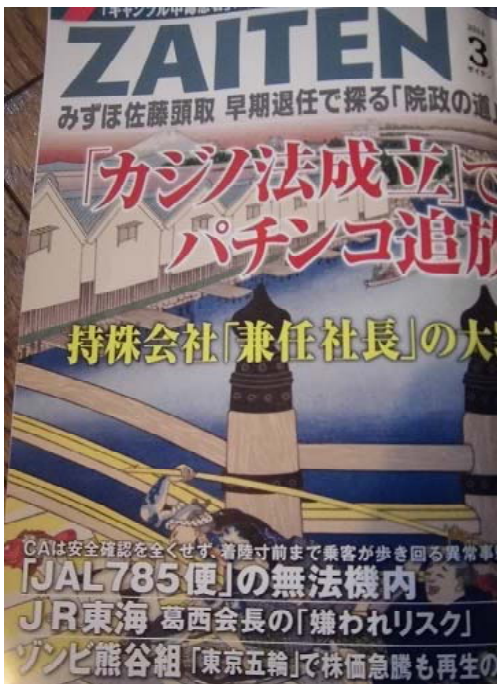


現政権とのパイプの太さを自負する葛西会長 名誉会長就任前にビジネス紙に不名誉な記事



政商化が危惧される葛西会長

ビジネス雑誌「ZAITEN」（財界展望新社）3月号にJR東海 葛西会長の『嫌われリスク』と題された記事が掲載されました。内容はNHK人事にはじまり原子力損害賠償支援機構運営委員時の言動、リニアプロジェクトにおける強引さなど内外からの取材を中心に構成されています。

これまでオレがオレがの言動が災いし永田町や霞ヶ関や財界人にも人望が薄い、経営者として致命的と記事は締めくくっています。

暴走する葛西会長！？

記事の中心は会長のタカ派ぶりや社内外に誰も歯止めをかける者がいないので暴走を止められないと容赦なく批判しています。特にNHK人事における露骨な介入策動により、一層批判がたかまったといわれています。

JR東海の新体制はおためごかし人事

JR東海は4月1日付けで山田社長から、柘植新社長の人事を発表しました。そのおり会長職を山田現社長に譲り、葛西会長は代表権のある名誉会長に就くことになりました。

第一線を退くにあたり用意されるものが名誉職です。退きながら代表権を握りつづけるのは前代未聞の人事なのです。そうまでしてトップを交代させる事情があることを取材して記事にしてあります。先にも述べたように内外から批判をかわすための人事だとも言われています。

リニア建設が国鉄に逆戻りにならないか

葛西会長はタカ派ぶりから安倍政権との親密さを公言しています。政権とのパイプの太さから政商化していると危惧されてもいます。採算が合わないリニア開発を進める葛西会長は最初から国からの助けを当てにしているのでは？まるで国鉄のように・・・